

3/5 Hirado City Photo News
夜空に映えるハクモクレン



田平町の瑞石山無量寿院海寺(通称「海寺」)跡のハクモクレンで、一夜限りのライトアップが行われました。この木は、県の天然記念物に指定されており、樹齢は言い伝えによれば千年といわれていますが、少なくとも600年は経過しているものと推定されています。

ライトアップは、地元地区と青壮年会が中心となって1日限定で実施。訪れた人たちは、夜空に幻想的に浮かび上がったハクモクレンや参道に飾られた約50個の竹灯籠を写真におさめていました。

2/23 Hirado City Photo News
豊洲の目利きがアドバイス



東京の豊洲市場の水産仲卸「島津商店」の島津さんが市内生産地を巡回し、梱包、鮮度保持などのアドバイスや意見交換を行いました。

未来創造館では、島津さんと株式会社鞆の江口慎一さんによる、最近の外食産業における顧客ニーズや、食のトレンド、平戸の鮮魚類についてのトークセッションが行われました。その後、島津さんによる活魚の神経締め・血抜きの実演や処理の仕方の違いによる熟成魚の食味比較が実施され、参加した人たちは積極的に質問していました。

3/6~8 Hirado City Photo News
花粉の少ない島でつかの間のリフレッシュ



的山大島で「スギ花粉避粉地体験ツアー」が行われ、佐世保市や福岡県、広島県から花粉症に悩む8人が参加しました。このツアーは、NPO法人文化財匠塾平戸支部などが平成20年から開催。

参加者は島内の民宿や宿泊施設に泊まり、島のじげもん料理を堪能。2日目は小雨が降る中、朝鮮井戸や平の辻展望台、神浦の町並みなどを散策しました。長崎大学病院の渡邊毅医師による花粉症講座も行われ、花粉症の症状や原因、最新の治療法などの説明に参加者は真剣な表情で聞き入っていました。



3/13 Hirado City Photo News
巨大な2匹のマダイが出現



生月漁協前の防波堤に、生月小学校を今春卒業する6年生21人が描いたマダイ2匹の絵がお目見えしました。平成25年度から郷土愛の醸成や漁業の担い手の育成を目的に生月漁協と同校PTAが協力して実施。

新型コロナウイルス感染症予防に伴う臨時休校中に久しぶりに集まった児童らは、最後にマダイの目を塗り仕上げました。卒業生の谷本工武さんは「マダイの尾ひれをていねいに塗ることを心がけました。満足のいく出来だと思います」と話しました。

3/11
田平ホームが市内で初めて認定



江迎公共職業安定所でユースエール認定通知書交付式が行われ、「社会福祉法人慈愛会(特別養護老人ホーム田平ホーム)」(石本宗裕理事長)が認定を受け、長崎労働局の金成真一局長より通知書が交付されました。

ユースエール認定企業とは、若者の採用・育成が積極的で、雇用管理が優良な中小企業を若者雇用促進法に基づき厚生労働大臣が認定した企業のことです。市内では初めて、長崎県内においては13番目の認定となります。

2/22~24
さまざまな椿がお目見え



たびら活性化施設で「第46回田平つばき物産展」(22日~23日)、未来創造館で「第45回平戸椿まつり」(23日~24日)が行われました。

会場には、市内の愛好家が丹精を込めて育てた多種多様な椿が並び、来場者の目を楽しませていました。田平会場では、椿のほかに町内の小学生や園児による絵なども展示。また、椿苗、農産物、農水産加工品、特産品などの販売や食生活改善グループによる本格うどん販売、フラワーアレンジメント教室など各種イベントが行われました。

2/22~23
オープン8周年を記念して



平戸瀬戸市場で、オープン8周年を記念した誕生祭が行われました。

会場では、ウチワエビの味噌汁やあごだしうどん、焼きもちぜんざいなど平戸産の素材をふんだんに使ったメニューが販売され、ゲームコーナーや海鮮バーベキューは多くの家族や子ども連れでにぎわっていました。千円の買い物ごとに1回ガラポンを回せる大抽選会には、平戸牛や夏香ぶりがセットになった平戸産品ギフトセットなど豪華景品を当てようと多くの人が列をなしていました。